

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大項目1～13に関して設定した諸目標を達成することによって、本学部の使命・目的を実現する。	→大項目1～13において掲げられた諸目標に関して、それらの達成度の維持・向上。	B	C	B	B	A
2. カリキュラムや教員組織等が商学部の使命・目的に照らして妥当か否かに関して、常時継続的な検証努力を行う。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	B	C	B	B	B
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部執行部を中心にして、とくに2011年度以降、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの設定が行われた。これを教授会で審議の後、WEB上その他を使って、ひろく社会に周知した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各種ポリシーの設定とその審議の過程を通じて、学部専任教員間において本学部の理念や目的について共通の理解を得ることができた。しかしながら、それが社会においてどの程度周知されたか、たとえば入試戦略上においてどの程度の有効性を持ったかという点については、今後検証していく必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部内にあつては、各種ポリシーの社会的妥当性等について、学部執行部やファカルティ・ディベロップメント委員会(2014年度からFD委員会より変更、以下、ファカルティ・ディベロップメント委員会に統一)およびファカルティ・ディベロップメント教授研究会(2014年度からFD教授研究会より変更、以下、ファカルティ・ディベロップメント教授研究会に統一)の場で、常時確認、点検し、適宜必要な改善を行う。また学部外に対しては、各種広報媒体を通じてさらに周知を図るとともに、入試面接等の場において確認を行う。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部執行部によって2011年度中に専門科目の2単位化、言語教育科目のセメスター開講、専門基礎科目の強化が立案され、これをカリキュラム委員会において検討の後、教授会で承認を得ることによって、同案が2012年度より実行された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		カリキュラムや教員組織等が商学部の使命・目的に照らして妥当かどうかに関し検証することを目的に、ファカルティ・ディベロップメント委員会を年2回開催している。また、2単位化、言語教育科目のセメスター開講を通じて、学生の効果的かつ合理的な履修が可能となり、学修成果の向上が期待される。しかしながら、2単位化によって科目によっては、その内容が毀損した可能性も否定できない。演習科目の再構築や進級条件の設定についても、依然として具体的な検討に着手できていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		2014年度中に、新カリキュラムの教育効果についての再検証を行う。演習科目については、とくに研究演習の選択方法を2014年度冒頭に大きく改修した。進級条件の設定等、カリキュラムのより一層の改善については、学部の将来構想委員会に具体的な項目を明示して諮問を行う。	☆
		その他	☆
備考			☆